

横浜市インフルエンザ流行情報 14号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

《トピックス》

- 患者数は減少傾向ですが、重症化に注意が必要です。
- B型の報告数が増えています。

【概況】

2017年第8週(2017年2月20日～26日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **14.55** と、第7週の21.54から減少しましたが、警報解除基準(10.00)を下回っていません。

学級閉鎖等は第8週で38件の報告があり、減少傾向にあります。しかしながら、依然として医療機関、高齢者施設内での集団発生も報告されていますので、引き続き、外部からの持込み防止対策や職員及び入所者等の健康観察が重要です。

一方、入院患者の報告は続いており、小児と高齢者で多く報告されています。今後とも重症化についても注意が必要です。

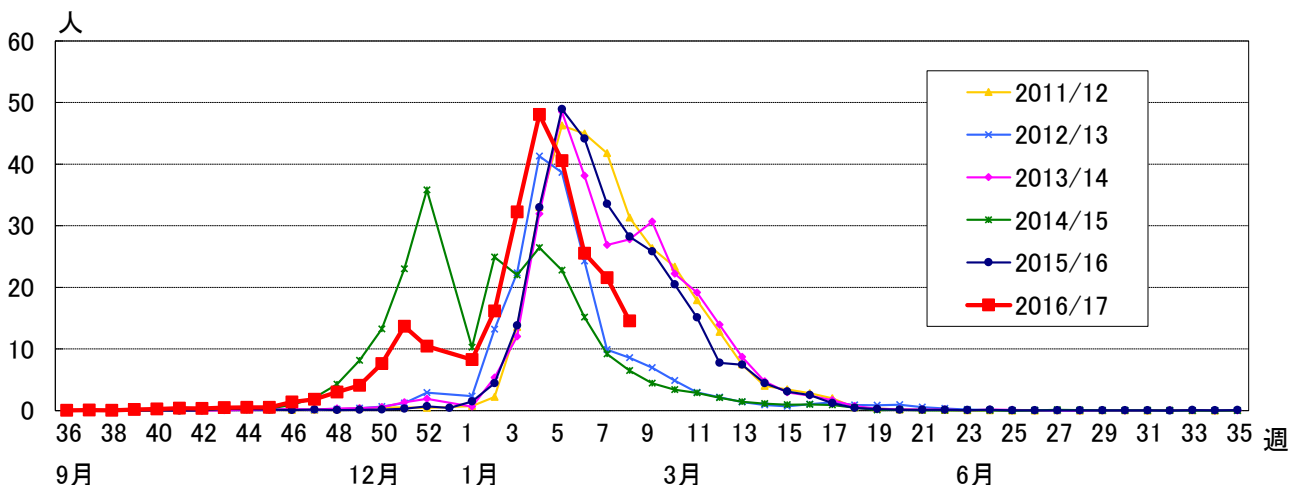
第6週以降、**迅速診断キットの結果はB型の割合が増加**しており、第8週はA型74.0%、**B型25.9%**、A・B型ともに陽性0.2%となっています。市内のウイルス検出状況では、ほとんどがAH3型(A香港型)です。

患者報告数は減少傾向にありますが、流行警報は継続して発令されています。引き続き、予防や早期受診などの対策^{※2}を心がけましょう。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

- 1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は第8週で14.55となり、前週の21.54から減少しました。第4週の48.06をピークとして漸減している状況ですが、依然として報告数が多い状態は続いており、注意が必要です。



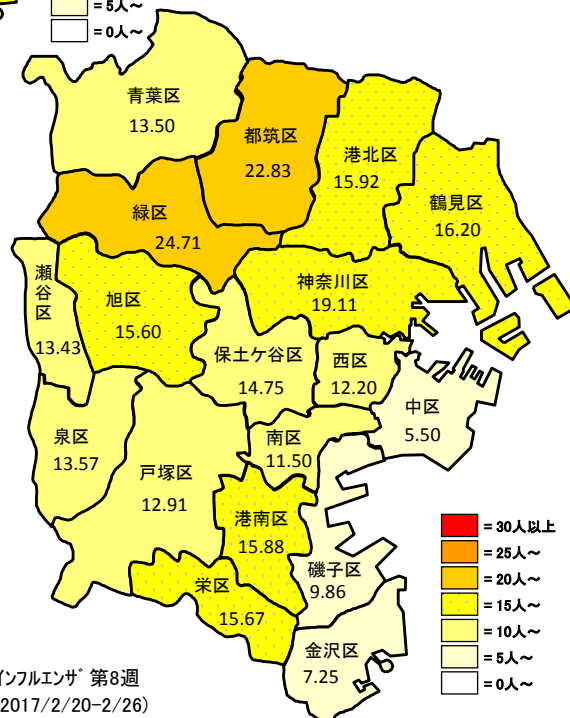
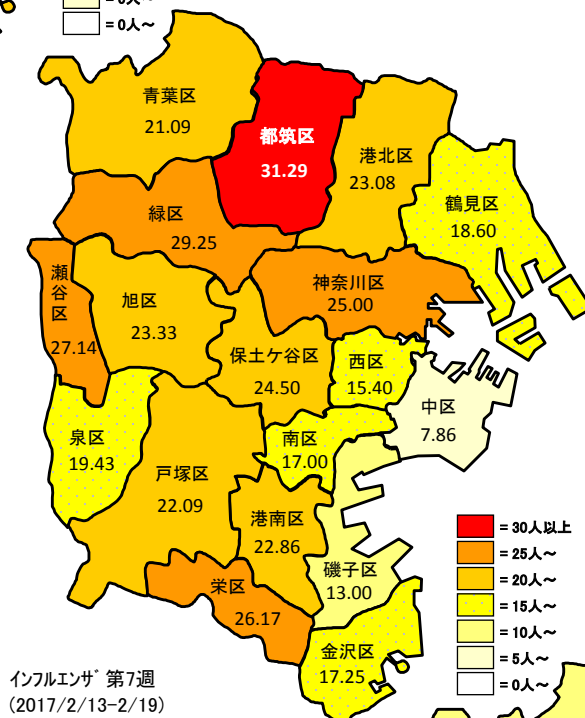
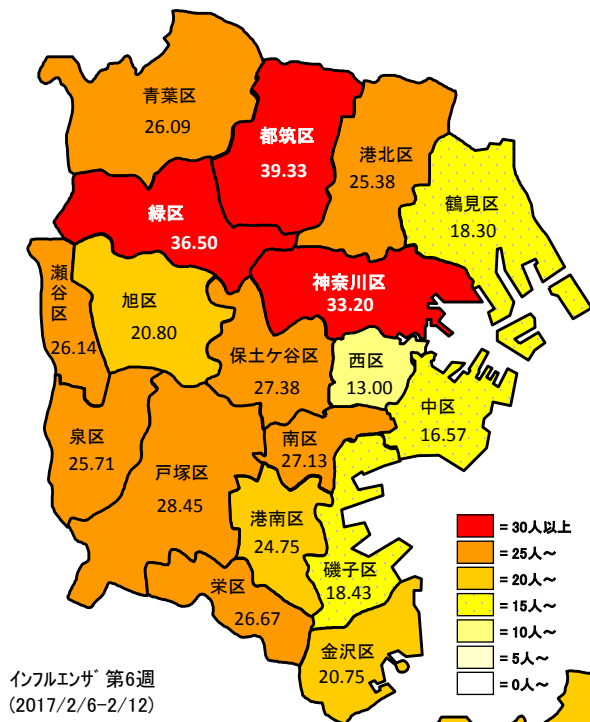
2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

2017年第3週(1月16日~22日)に市全体で警報発令基準値(30.00)を上回りました。

第3週は13区で、第4週は17区で警報発令基準値を上回りましたが、これをピークとして各区とも減少傾向となっています。

警報は市全体で解除基準値(10.00)を下回るまで続きます。直近の5年間では、概ね2月中旬から3月下旬までの期間に解除されており、昨シーズンは第4週(1月25日~31日)で警報発令、第12週(3月21日~27日)で解除されています。

流行警報の発令は継続しており、ワクチンの接種の有無に関わらず、引き続き、手洗い等の予防策の徹底が重要です。



【参考リンク】

近隣自治体の流行状況

○ [神奈川県](#)

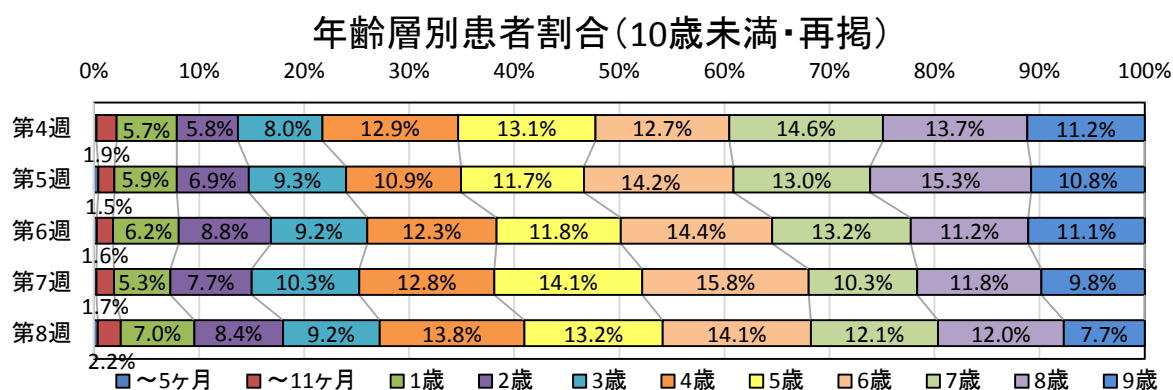
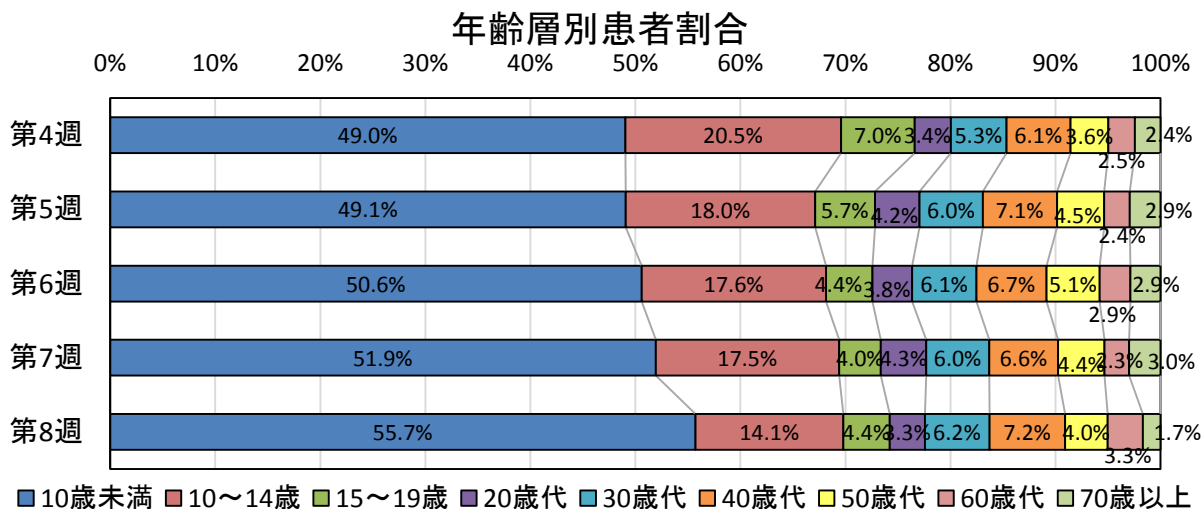
○ [川崎市](#)

○ [東京都](#)

全国の流行状況

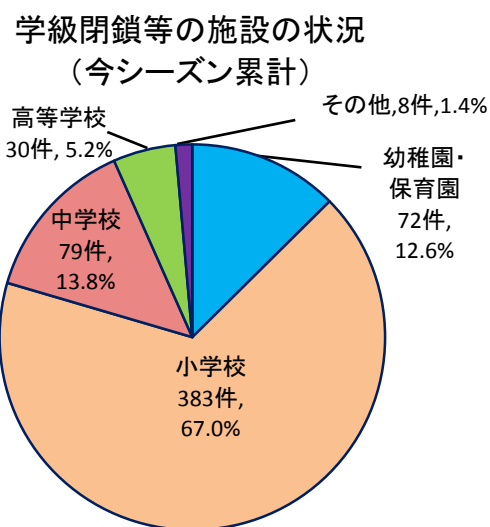
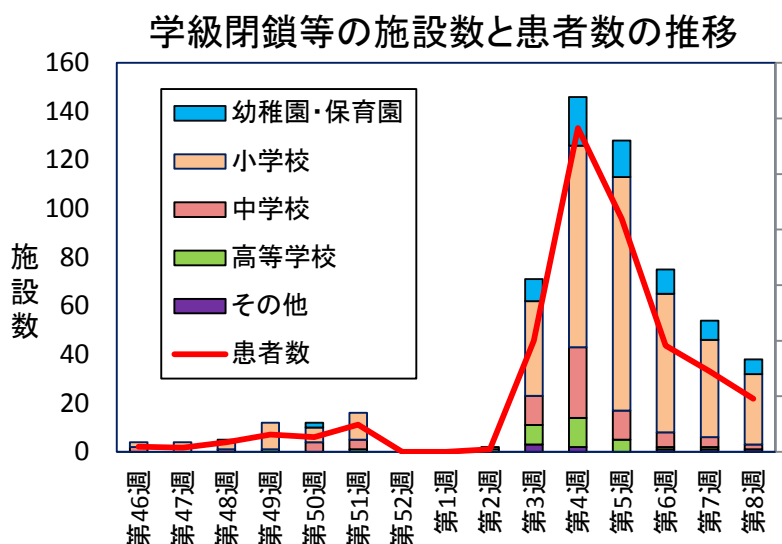
○ [国立感染症研究所](#)

3 年齢層別集計:第8週の患者年齢構成は、10歳未満が全体の55.7%、10歳以上15歳未満が14.1%となっており、15歳未満が全体の約7割を占めていますが、10歳未満の割合がやや増加傾向です。学級閉鎖等の報告は減少していますが、依然として報告数が多い状態ですので、引き続き小学校や中学校での感染予防策の徹底が重要です。



4 市内学級閉鎖等状況:第4週で145件と報告数が増加していましたが、第5週以降は減少傾向です。第8週の内訳は、幼稚園・保育園6件、小学校29件、中学校2件、その他1件で、小学校が多くを占めています。第8週で報告された患者数(医療機関で診断された人数とインフルエンザ様の症状のある人数の合計)は479人で、第7週の724人^{※3}から減少しています。

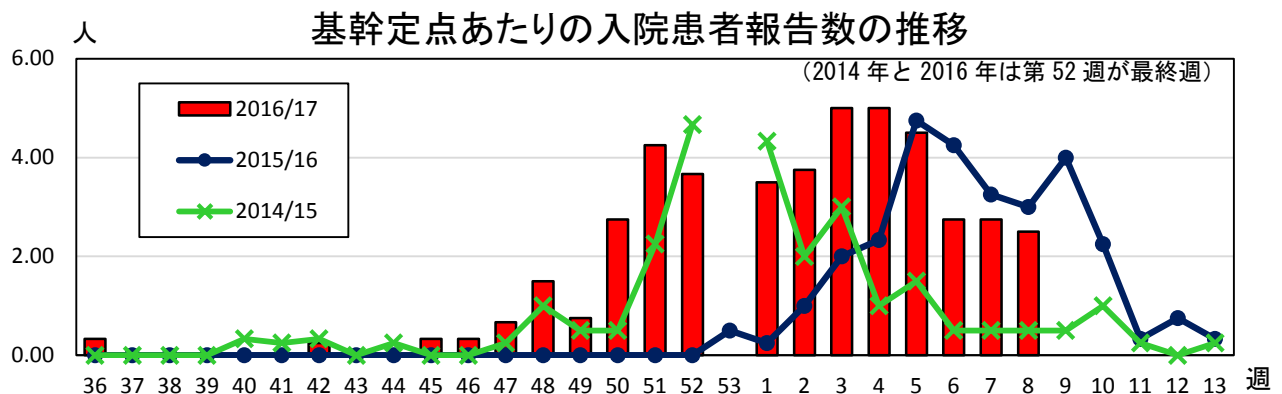
※3 追加報告があったため、流行情報13号から報告数が更新されています。



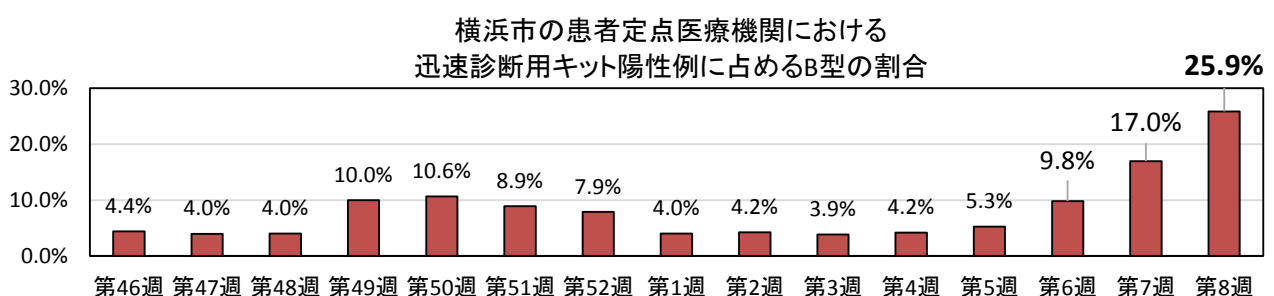
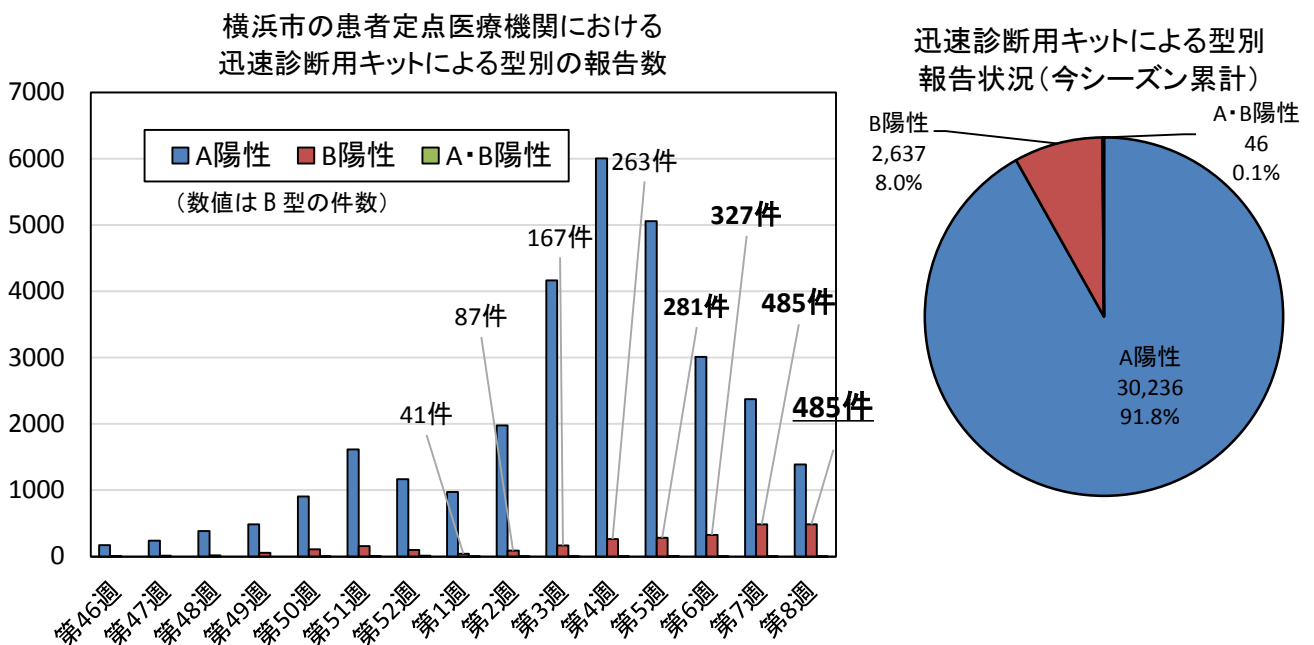
5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※4}あたりのインフルエンザ入院患者報告数は第8週で2.50となり、累計で173人となりました。うち、15歳未満が58人(33.5%)、70歳以上が80人(46.2%)となっており、小児と高齢者が多くを占めています。これまでに迅速キットの結果が把握されている事例は、すべてA型です。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、特に小児と高齢者で多くの報告があります。

※4 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



6 迅速キット結果:今シーズンの迅速キットの結果の累計は、A型30,236件(91.8%)、B型2,637件(8.0%)、A・B型ともに陽性46件(0.1%)と、A型が多く検出されてきます。一方、第8週の迅速診断キットの結果はA型1,388件(74.0%)、B型485件(25.9%)、A・B型ともに陽性3件(0.2%)となっており、第6週以降、B型の割合が増加しています。例年、ピークを越えてからB型が増加するため、今後の動向に注意が必要です。

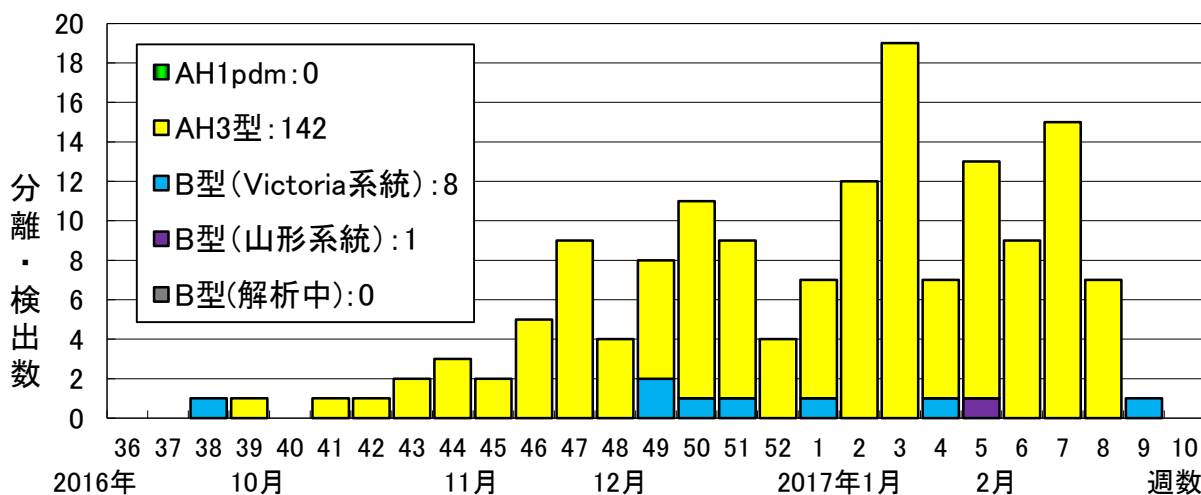


7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点医療機関^{※5}から AH3 型が最も多く分離・検出されており、全国の状況^{※6}と同様です。

※5 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

※6 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

病原体定点からのインフルエンザ分離・検出状況(2017 年 3 月 1 日現在)



【参考】

市内で分離された AH3 株(細胞培養した 174 株、2 月 27 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)は、ウサギの血清を使っているため参考値ですが、すべて 8 倍以上でした。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内であり、現在までに市内で分離された AH3 株については、ワクチン株と類似しているとは言えず、国立感染症研究所の結果と矛盾しない結果^{※7※8}と考えられます。

一方、市内で分離された B 型株(細胞培養した 14 株、2 月 9 日現在)については、すべて 4 倍以内でした。

※7 [インフルエンザウイルス流行株抗原性解析と遺伝子系統樹 2017 年 2 月 24 日\(国立感染症研究所\)](#)

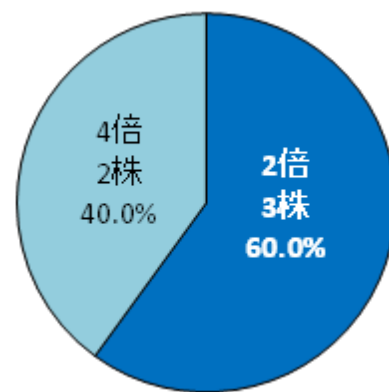
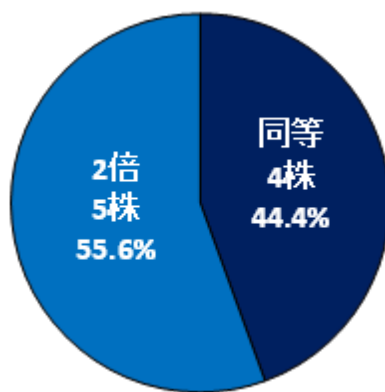
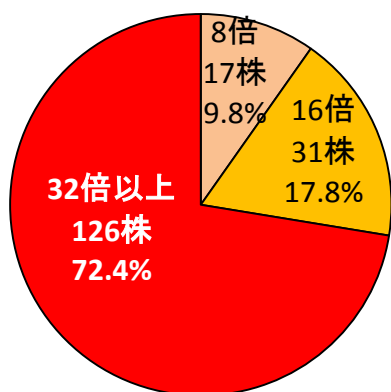
※8 [A\(H3N2\)亜型野外流行株の抗原性解析結果\(国立感染症研究所\)](#)

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析

AH3 抗原性解析(174 株)

B ビクトリア系統抗原性解析(9 株)

B 山形系統抗原性解析(5 株)



■ 同等 ■ 2倍 ■ 4倍 ■ 8倍 ■ 16倍 ■ 32倍以上

【お問い合わせ先】横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (370) 9237

横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2463